

人文社会系分野における オープンサイエンス －実践に向けて－

近年、オープンサイエンスの推進が分野を問わず学术界全体に求められており、人文社会系分野においても今後ますますオープン化を巡る動きが重要になってくると考えられます。当セミナーではこれまでも人文社会系分野に注目したセミナーを実施してきましたが、今年度は実践的かつオープンな研究活動が既に展開されている取組に注目しました。

今回のセミナーでは、言語学分野における基盤データの構築とそれを用いた研究活動振興等の実績がある国立国語研究所の取組と、研究者と市民が協働し新たな研究データ作成や研究基盤の構築を目指す市民科学の実践事例として「みんなで翻刻」の取組を、それぞれご講演いただきます。そして、研究者によるデータ構築と市民科学との間を繋ぐ媒介者としての役割を担うURA（リサーチ・アドミニストレーター）の取組についても論じていただきます。

これらの報告から、人文社会系分野のオープンサイエンスを幅広く安定的に展開していくための情報共有を試みます。また、オープンサイエンスと言うと研究者のものと思われがちな面もありますが、図書館職員や大学職員、出版関係者など多くの関係者が、それぞれの立場から「オープンサイエンスの実践」について具体的に考えられるような検討を行っていきます。

2019年10月24日（木） 13:30～17:00

国立情報学研究所 12階会議室

【登壇者（敬称略）】

■ 小野 英理

京都大学情報環境機構 IT企画室

■ 小木曾 智信

国立国語研究所

■ 加納 靖之

東京大学地震研究所/地震火山史料連携研究機構

■ 中村 美里

東京大学附属図書館

■ 鈴木 親彦

国立情報学研究所 / 人文学オープンデータ共同利用センター

プログラム (諸事情により、講演順が一部変更となりました)

開会挨拶 / 概要説明

13:30-13:35

鈴木 親彦

国立情報学研究所 / データサイエンス共同利用基盤施設 人文学オープンデータ
共同利用センター 特任研究員

オープンサイエンス的市民協働のために大学ができること

13:35-14:15

小野 英理

京都大学情報環境機構 IT企画室 特定講師

国立国語研究所の言語資源とオープンデータ

14:15-14:55

小木曾 智信

国立国語研究所 言語変化研究領域 教授

「みんなで翻刻」にみる歴史地震研究への非専門家の参加

14:55-15:35

加納 靖之

東京大学地震研究所/地震火山史料連携研究機構 准教授

15:35-15:55

(休憩)

パネルディスカッション

15:55-16:55

パネリスト：小木曾 智信, 加納 靖之, 中村 美里

モデレーター：鈴木 親彦

閉会挨拶

16:55-17:00

武田 英明

国立情報学研究所情報学プリンシプル研究系 教授/SPARC Japan運営委員会 委員長



2019年度年間テーマ：令和時代のオープンサイエンス

第1回 10/24 (木)

：人文社会系分野におけるオープンサイエンスー実践に向けてー

特別編 11/12 (火)

：オープンアクセスの今とこれから

(図書館総合展)

ーステークホルダーの戦略とともに考えるー

第2回 12月

：研究者情報サービスの動向 (仮)

第3回 1~2月

：研究データ管理 (仮)

お問い合わせ先

国立情報学研究所 SPARC担当

E-mail: co_sparc_all@nii.ac.jp

FAX: 03-4212-2375